

えのきしんでんいせき 8 榎新田遺跡

所在地：勝山市元町3丁目 605-4

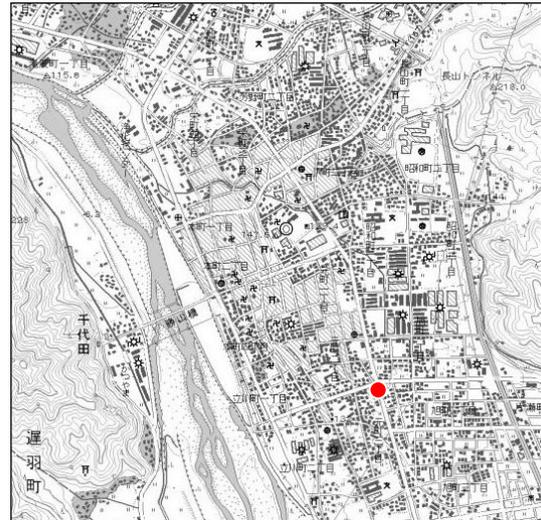
調査原因：店舗の新築

調査期間：令和4年7月

調査主体：勝山市

調査面積：46.8 m²

時代：奈良・平安時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 当遺跡は、勝山市役所から約 1.4 km 南方の九頭竜川右岸の河岸段丘上に立地し、立川町2丁目、元町3丁目、旭町2丁目一帯に広がっていると推定されます。調査地は当遺跡範囲の縁辺部にあたり、近隣には個人住宅が建ち並んでいます。榎新田遺跡の発掘調査は今回で3回目となります。調査の結果、奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀前半）を中心とした遺物包含層が良好に残り、遺構や遺物も見つかりました。なお、この時期の上にさらに中世の土器を含む遺物包含層が薄く残存していました。

主な遺構 小穴が24基、土坑2基が見つかりましたが、建物跡などを物語る遺構は見当たりませんでした。これらの遺構の覆土は、黒色土と黒灰褐色土の大きく2つに分類が可能です。前者の黒色土からは、主に平安時代の土器が出土しました。調査地の北東付近は地山が礫層で、遺構を確認することができませんでした。

主な遺物 出土量はコンテナ箱数でいうと1箱程度です。平安時代の土師器、須恵器を中心に、調査地南側に残存していた中世の遺物包含層からは越前焼が見つかりました。また、注目する資料としては、小穴から出土した赤彩された土師器（蓋）です。当遺跡からは、先の調査でも赤彩された土師器の坏が見つっています。これらの土器は金属器を模倣したものともいわれており、市域からは榎新田遺跡のみの発見であることから、当遺跡の大きな特徴を示す資料といえます。（藤本康司）

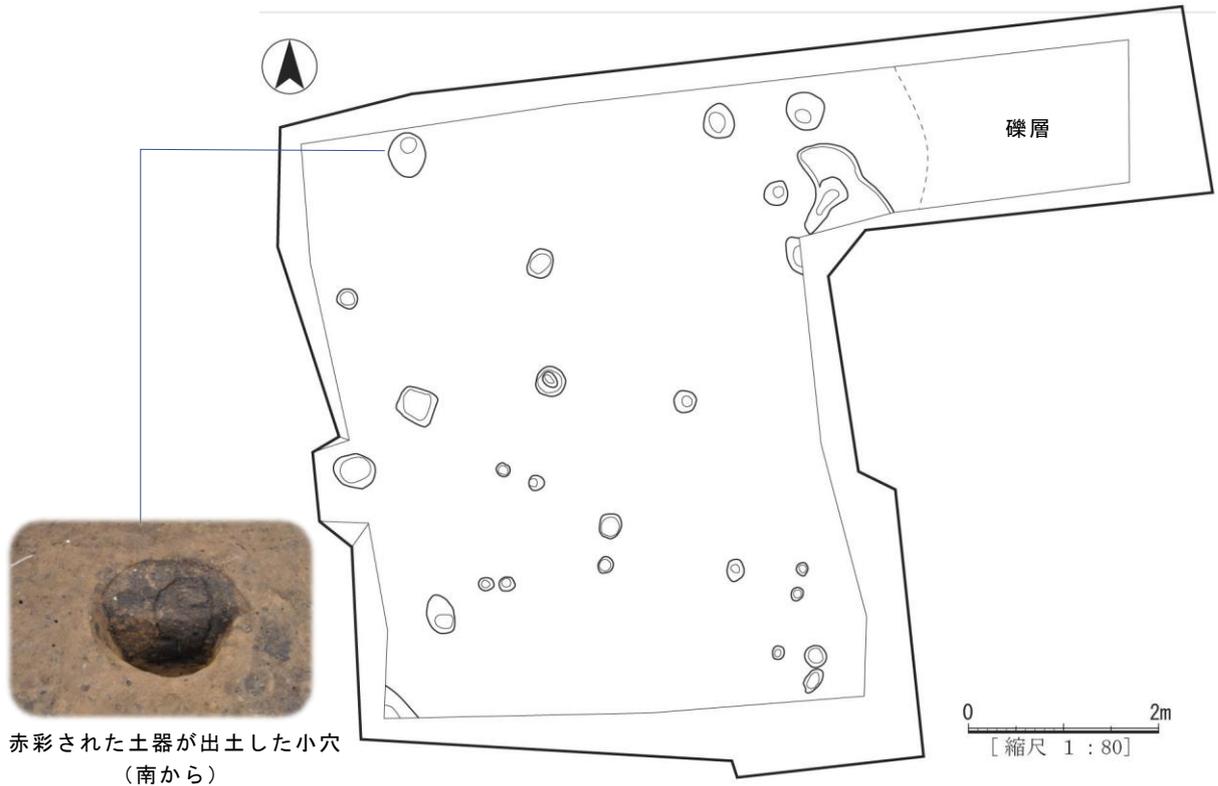


図 1 調査地平面図



写真 1 調査地 遠景(南から)



写真 2 調査地 全景(南西から)



写真 3 土層堆積状況(北から)

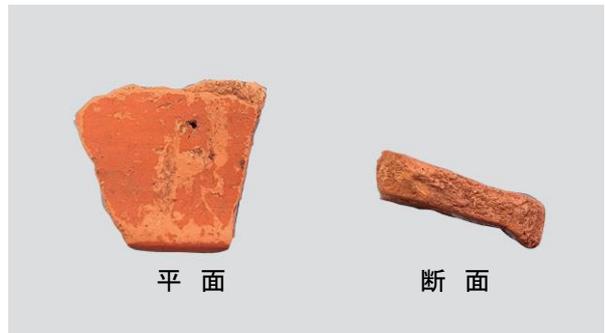


写真 4 赤彩された土師器(蓋)